

平成 15 年度 第 2 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 15 年 7 月 24 日 18:30～20:00

市民活動サポートセンター

出席委員 13 名……新井、水谷、石塚、伊藤、江口、佐藤、柴崎、四分一、多田、田中、細川、松澤、横山

事務局 3 名……YMC A よこすかコミュニティサポート 高村、田口、佐久間
市民生活課 山田

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

(1)利用者ミーティング、(2)市民公益活動団体について、提案どおり承認した。

(3)市民活動サポートセンターの開館時間について、平日の 22 時までの開館を維持することを確認し、日曜等の夜間利用について、今日の意見交換と利用状況を踏まえ、各委員が次回までに再度考えてくることとした。

[意見概要]

夏の市民活動体験スタンプラリーについて

(事務局)

レポーター講習会は 7 月 5 日の第 1 回とは別に参加者の意向で夜の時間帯にも開催し、現在 8 人が受講済みである。8 月 6 日分は 6 人の応募がある。

7 月 19 日に開催された日本青年会議所主催の市民活動支援のイベントである「2003 サマーコンファレンス」にスタンプラリー参加団体有志で参加し、スタンプラリーの PR を行った。

(細川委員)

スタンプラリーに今回初めて参加し、7 月 20 日に救急法講習会を実施したが、PR をサポートセンター任せにしてしまったためか、参加者はレポーター 1 名を含め 3 名しかいなかった。これからやる団体は PR を積極的にした方が良くと思う。今日の神奈川新聞に掲載されていた活動は大勢来ていたようだが。

(伊藤委員)

夏休みに入ったばかりの時期は予定を決めていない人が多いので集客が難しかったのではないかと。私たちは、通常の活動を公開したので特別な PR はしていないが、新聞記事になった日は、取材があるかもしれないと個別に勧誘した。イベントを行う時は、チラシを作って、学校や町内会役員への配布、マンションへのポスティングなどを行っている。1 周年の行事の際は 50 人ほどの親子の参加があった。

(水谷委員)

いろいろなところで救急法講習を行っているということもあるのではないかと。

(横山委員)

日赤や消防などで同様の講習会があると思うが、PR の工夫で、ぜひまた参加をしていただきたい。

市民協働推進セミナーについて

(新井委員・石塚委員)

セミナーでのパネリストや事例発表者の名前が募集チラシの中に無かった。名前が出ていれば行ってみようという人がもっと多かったのではと思うが、掲載しなかったのはなぜか。

(事務局)

当初予定になく、講師との打ち合わせで決まった部分が多い。次回はもう少し早めに講師と打ち合わせ、講師以外の発表者の名前を入れるように努力したい。

利用者ミーティングについて

(事務局)

利用者ミーティングは、出席者が水谷委員のみだったため、開催しなかった。利用者ミーティングでお知らせしていくことになっていた利用者の声は資料3の通り。

(柴崎委員)

利用者ミーティングの形をとらなくても交流が始まったケースはあると思われる。団体からリクエストがあった時の開催が良い。活動している人は活発な人が多いので、自分から声をかけにくいということもないだろう。

(多田委員)

のたろんフェアやスタンプラリーなどが定着し、そこでの交流が深まってきているので、利用者ミーティングの必要性が薄れてきているのではないか。

(田中委員)

フェアに参加できない団体で交流を必要としている団体があるかもしれない。私の団体では、年1回、会員交流会を行い、ふだんの活動に参加できない会員も交流が図れるようにしている。サポートセンターの利用団体交流会的なものを、開催したら来る人がいるかどうか。

(松沢委員)

多くの団体がそれぞれの目的で利用している。オープンスペースで隣りのグループの活動内容が聞こえるようになっているので、交流をしたい団体は、通常の利用時に、必要に応じて交流を図れば良い。誰かに場を設定してもらうのではなく、自ら行動するのが市民活動である。

(江口委員)

自分自身、複数の団体で活動しており、自分たちの活動で手いっぱい、交流する余裕がないのが現状である。また、私の団体は、「公益活動団体」とされていないので、フェアに参加できない。参加資格を「原則、公益活動団体」とするなど余裕を持てば参加しやすくなるのではないか。

(佐藤委員)

会によって目的が違い、交流に重きを置く団体とそうでない団体とある。お見合いと同じで、交流したい人同士、自然発生的にやれば良い。無理に設定する必要はない。私たちボーイスカウトは活動が類似しているガールスカウトとは積極的に交流している。

市民活動サポートセンターの開館時間について

(事務局)

資料 5(3)のとおり、開館時間について意見交換をし、必要に応じて見直しをしていきたい。1日あたりの夜間利用状況にある通り、過去1年間の統計を見ると、日曜の夜9時で5.5人、8時以降、9時以降の入館者数はそれぞれ1.1人、0.6人と少なくなっている。
日曜・祝日の夜間の利用者は、サポートセンターの通常の利用者ではなく、パソコンなど特定の個人の利用がほとんどというのがスタッフの共通した意見である。

(新井委員)

日曜の夜の利用状況を見てみると、光熱水費、つまり、税金の無駄使いと感じた。酔っ払いがスタッフに絡んでいるような状況もある。みなさんの意見をいただき、次回につなげていきたい。

(横山委員)

年末年始6日以外は、毎日、9時から22時まで開館している。市民サービスの低下ということではなく、利用実態に合わせた見直しを検討していきたい。

(四分一委員)

仕事の関係で夜間の利用が多い。総合福祉会館等は9時までで、10分前ぐらいには出されてしまう。10時まで開館のサポートセンターは安心して利用できている。

(田中委員)

私の団体の活動から考えれば、日曜・祝日については時間を短縮しても影響ないが、平日は22時までの開館を維持したい。

(事務局)

運営サイドとしても、平日の夜はニーズがあるので、22時までの開館を維持したいと思う。利用者が少ないと感じるのは、日曜・祝日の夜間である。

(多田委員)

平日22時までを維持できれば、利用状況から見て、日曜・祝日は短縮した方がよい。

(細川委員)

問題にしているのは日曜・祝日の時間短縮だけか。日曜、月1回ぐらい第何日曜などと決めて、休館を考えてもいいのではないかと。

(松澤委員)

平日22時までを維持できれば、日曜・祝日の時間短縮は問題ない。大きな場所なので、少ない人数のために全館を開けておくのはどうなのかなと思う。経費的な面から考えれば時間短縮も良いのではないかと。

(石塚委員)

22時まで開館していることに驚いている。利用者が少ないなら、22時まで開けなくてもいいのではと思う。休館は次の段階だと思う。

(伊藤委員)

休館日がないことに驚いている。サポートセンターができた頃、利用が少なく、税金の無駄使いだという声があった。この利用状況から見ると、22時までの開館はもったいないので、日曜夜間の時間は短縮した方がよい。

(江口委員)

前回の運営委員会の後、いろいろな人に開館時間の短縮について聞いたところ、皆、困るという回答だった。短縮して良いという人は一人もいなかった。決めた開館時間は選挙公約と同じ。市民に浸透してきており、変えるべきでない。市の施設は利用者が少ないから閉めるとか開館時間を短縮するということはない。サポートセンターだけ短縮したり、休館にしたりするのは疑問である。酔っ払いについては、どう対処するかが先である。警備員の巡回する回数を増やすなどの対応が考えられる。

(佐藤委員)

利用者あつての対応をするか、時間短縮ありきでいくかである。利用者が少ない時は開館時間を短縮するような市からの指導があるのか。

(新井委員・水谷委員)

運営委員として、利用者として、問題と捉えている。市からの指導というようなことではない。

(佐藤委員)

9時から22時の開館時間は大前提と考える。光熱水費、酔っ払いの問題などがあるからといって、一概に時間を短縮してしまうのは疑問である。

(柴崎委員)

時間短縮をすれば、クレームが出ると思うが、効率良くサポートセンターを運営することは、私たち運営委員会の役目である。開館時間の削減を含め、検討していくことは良いことである。

(事務局)

酔っ払いの問題は平日、休日に関係なく発生し得るので、別に考えた方が良くかもしれない。日曜の利用は非常に少なく、通常の利用団体と違う個人利用がほとんどであることから、運営委員会の事前打ち合わせの中で、新井委員、水谷委員からの意見をいただき、審議事項に入れたものである。

(新井委員)

今日の意見踏まえて、次回までに再度、それぞれが考えてきてほしい。